

【別紙】

骨密度の検査方法

骨密度検査に用いられる方法として、DXA 法、REMS 法、QCT 法、MD 法、QUS 法の5つがあります。そのうち、骨粗鬆症の確定診断としては DXA 法が使用されています。

当社が新たに発売する「超音波踵骨測定装置 FRS-100A 『LIAQUS(リアクス)ポータブル』」は QUS 法を用いており、骨粗鬆症のスクリーニングとして使用できます。

測定法	DXA 法 (2重エネルギー エックス線吸収法)	REMS 法 (Radiofrequency Echographic Multispectrometry 法)	QCT 法 (定量的 CT 測定法)	MD 法 (Microdensitometry 法)	QUS 法 (定量的超音波測定法)
原理	2 種類の X 線を骨に当てて、X 線の吸収率から骨密度を測定。	腰椎および大腿骨に対して超音波を送信し、骨から反射した超音波パルスを用いて解析を行い、骨密度を算出。	X 線 CT で撮影した画像から、CT 値を読み取って骨密度を測定。	中手骨をエックス線撮影し、写真の濃淡の差を分析して、骨量を測定。	超音波が骨の中を伝わる速度 (= 伝播速度) と減衰率から骨密度を測定。
主な測定部位	腰椎 大腿骨 橈骨	腰椎 大腿骨	腰椎 大腿骨 橈骨	中手骨	踵骨 (脛骨、橈骨、指骨)
保険点数	360 点 ※同一日に DXA 法により大腿骨撮影を行った場合には、大腿骨同時撮影加算として、90 点を所定点数に加算する。	140 点 ※同一日に REMS 法により大腿骨の骨塩定量検査を行った場合には、大腿骨同時検査加算として、55 点を所定点数に加算する。	140 点	140 点	80 点
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 骨密度変化の検出度が高い。 大腿骨の骨折リスク評価が可能。 骨粗鬆症の診断に使用。 	<ul style="list-style-type: none"> 放射線を使用しないため、被ばくしない。 比較的小さな装置なので専用設備は不要。 ベッドの上でも検査することが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 皮質骨と海綿骨の区別が可能。 DXA 法に比べると被ばく量が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> X 線装置があれば測定可能であり、専用の骨密度測定装置は不要。 	<ul style="list-style-type: none"> 放射線を使用しないため、被ばくしない。 確定診断には DXA 法が用いられ、QUS 法はスクリーニングとして使用。

※参考: 令和 6 年厚生労働省告示第 57 号「診療報酬の算定方法の一部を改正する告示」
別表第一 「D217 骨塩定量検査」 p.186

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

日本シグマックス株式会社 経営企画室 広報 緒方・峠

TEL: 03-5326-3254 FAX: 03-5326-3201 MAIL: kouhou@sigmax.co.jp (広報共有)